

製品名: TNF α -IP 2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19096**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	TNFAIP2
別名	TNFAIP2; Tumor necrosis factor alpha-induced protein 2; TNF alpha-induced protein 2; Primary response gene B94 protein
遺伝子 ID	7127.0
SwissProt ID	Q03169
免疫原	抗血清はヒト TNAP2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

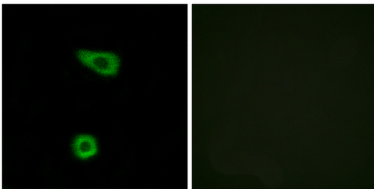
背景

この遺伝子は、臍帯静脈内皮細胞において腫瘍壊死因子 α (TNF) によって発現誘導される遺伝子として同定されました。レチノイン

酸受容体 α 融合タンパク質の発癌性バージョンを発現する細胞株において、この遺伝子の発現はレチノイン酸によって誘導されること示され、急性前骨髄球性白血病におけるレチノイン酸の標的遺伝子となる可能性が示唆されました。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、発生段階: in vitro において、発生段階と毛細血管様管形成段階において異なる発現を示す。機能: 炎症および血管新生のメディエーターとしての役割を担う可能性がある。誘導: TNF α およびその他の炎症誘発因子による。類似性: SEC6 ファミリーに属する。

研究分野

画像データ



TNAP2 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。